

に加える必要が益々増加して来た。

(7) 重要研究課題の選定には非常に慎重な審議をする委員会を持つており、国家に重要な課題を集めその研究が産業面に如何なる利益をもたらすか、研究者の陣容、設備、費用、期間等に就いて十分な検討を行い、一旦とり上げた以上は十分に之を援助して所期の目的を達せしめる事に努力している。従つて一方研究を担当した側でも深く責任を感じ全力を之に注入して期待に添うように努力している。日本の研究機関では研究費が少い、人手が足りない、研究設備が不完全なことを嘆いておる現状でありながら、この点に対しては甚しく手抜かりになつてはいないか、大いに反省を要すると思う。

(8) 中小工業の技術水準を高める事がその国の産業のレベルを向上さす上に重要な役割をする。そのため仏英などでは生産総数の0.3~0.4%に当る分担金をとり立てて技術センター又は Research Association などの強力な研究調査機関を設けて適切な指導に努力している。又鉄鋼業に於ても IRSID の如く生産額の0.3%に相当する分担金を出して研究調査費にあて政府ではなく民間産業体自身の手で立派な研究調査を推進している事はわが国の業界にとつて大いに学ばねばならぬ所であると思う。

以上感じた所を述べて参考に供する次第である。(終)

(昭和29—5月寄稿)

抄録委員依囑について

このたび本会々誌“鉄と鋼”編集委員会においては抄録欄の充実強化を図る為め新に下記関係各位に抄録委員を依囑し一層の御協力をお願いすることに致しました。なお抄録委員以外の方よりの御寄稿も歓迎いたしますので、念のため申し添えます。

抄 録 委 員 (順序不同)	担 当 誌
盛 利 貞 君 (京大)	J. of Metals (製銑及製鋼)
阿 部 秀 夫 君 (東大)	同 上 (製銑, 製鋼以外)
小 高 良 平 君 (東工大)	Archiv. f. d. Eisenhüttenwesen
不 破 祐 君 (東北大)	Trans. A. S. M. (製銑製鋼)
上 野 学 君 (機械試験所)	同 上 (製銑製鋼以外)
館 充 君 (東大生研)	J. Iron & Steel Inst.
谷 昌 博 君 (大谷重工)	Iron & Steel
井 上 道 雄 君 (名大)	Blast Furnace & Steel Plant.
高 橋 孝 吉 君 (神戸製鋼)	Iron & Steel Engineer, Wire & Wire Products
豊 島 清 三 君 (八幡製鉄)	Stahl u. Eisen.
高 橋 愛 和 君 (富士広畑)	Révue de Metallurgie (鉄鋼製錬)
秋 元 信 一 君 (日本鋼管川崎)	Iron Age, Sheet Metal Industry.
加 山 延 太 郎 君 (早大鋳物研究所)	Trans. Ame. Foundrymen's Ass.
広 岡 敏 夫 君 (鉄研)	Metallkunde
松 田 公 扶 君 (九大)	Giesserei
牧 野 昇 君 (東計器)	Révue de Metallurgie (加工, 合金)
森 一 美 君 (茨城大)	Trans. Ame. Electrochem. Soc.
河 井 泰 治 君 (住友金属)	Metal Progress.
吉 田 雄 二 君 (資源技研)	Brennstoff Chemie
青 木 猪 三 雄 君 (富士釜石)	Iron & Coal Trade Rev.
三 井 太 信 君 (通産省)	Steel.